

復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活動

奈良 隆章（体育系・助教）、川村 卓（体育系・准教授）

1. 概要

平成 25 年 12 月 22、23 日の 2 日間にわたり岩手県大船渡市を訪れ、22 日は大船渡高校野球部員を対象に合同練習および技術指導を行った。翌 23 日は大船渡中学校野球部員を対象に野球教室と昼食会を行った。

本プロジェクトは本学体育系増地克之准教授が代表を務める「大船渡・気仙沼震災復興支援活動における小中高生を対象とした柔道教室」と連携して行った。複数のスポーツ種目が同時に教室を開催したことは、スポーツ振興の観点において大変有意義であった。

2. 内容

本プロジェクトは、本学体育会硬式野球部による野球を通じたスポーツ振興を主目的として実施された。

初日は大船渡高等学校で投手・捕手・内野手・外野手の 4 グループに分かれて練習を行った。指導内容は打撃・守備に関するものであった。各グループに教員と学生がつき、計 3 時間の練習を行った。本学硬式野球部員を交えての体カトレーニングも行い、トレーニングの講習を行うと同時に交流もはかることが出来た。

大船渡市は現在もなお震災の影響が残っており、グラウンドの状況をはじめ十分な練習環境が整っているとは言い難い。2 日目に指導を行った大船渡中学校も例外ではなく、校庭の使用ができない状況であった。そのため野球教室では「時間や場所の制約を受けながらいかに効果的な練習を行うか」というテーマの下、練習方法や取り組む姿勢について指導を行った。新たな練習方法を伝えられたことはもとより、学生野球最高峰でプレーする大学野球選手の姿を目に焼き付けてもらえたことは今後の発展に向けて大きな成果であったと言える。

本事業は、大船渡中学校および大船渡高等学校の教員、保護者の皆様と連携を図ることによって実施することができた。また本増寺（大船渡市内）の僧侶である木村文律氏には会場準備やスケジュール調整等でご尽力いただいた。

3. 今後の展望

本年 3 月にも大船渡高等学校野球部と合同練習を行うなど交流が続いている（於：筑波大学）。被災地の早期復興に微力ながらも貢献できるよう、野球を通じた支援活動を続けていきたい。今後は活動範囲の拡大や活動頻度の増加を視野に入れている。

また、本学硬式野球部は過去に宮城県亘理郡山元町でがれき撤去等の作業をした経験がある。野球の指導という枠にとらわれず、様々な形で被災地での支援活動を行っていきたい。



図 1 大船渡高校野球部部員との集合写真



図 2 大船渡中学校野球部部員との集合写真